

報告 1 :

地域公共交通の問題点・課題（修正点）について

平成30年12月12日

白 馬 村

## 1. 白馬村の都市概況と問題点

### (1) 地域概況

#### 【旧版】

##### 【地域概況からの問題点】

- 自動車の利用を前提に様々な都市施設の立地が成り立っており、高齢化により車の運転ができなくなった場合や冬期の積雪時に車の使用が難しい場合など、移動の自由が阻害される。
- 中山間地の集落は、少子高齢化により集落自体の存続が危ぶまれ、村全体の人口も2050年には1970年の水準まで落ち込むことが予想される。村の存続のためには、生産年齢人口を厚くする施策が必要であり、若者の移住や定住を促進するための都市基盤、生活環境、交通環境の改善が必要である。



##### 【指摘点】

- 自動車の利用を前提に都市施設が立地しているわけではない。

#### 【修正版】

##### 【地域概況からの問題点】

- 自動車を利用せざるを得ない場所に様々な都市施設が立地しており、高齢化により車の運転ができなくなった場合や冬期の積雪時に車の使用が難しい場合などには、移動の自由が阻害される。
- 中山間地の集落は、少子高齢化により集落自体の存続が危ぶまれ、村全体の人口も2050年には1970年の水準まで落ち込むことが予想される。村の存続のためには、生産年齢人口を厚くする施策が必要であり、若者の移住や定住を促進するための都市基盤、生活環境、交通環境の改善が必要である。

### (3) 各公共交通の概況

#### 【旧版】

##### 【各公共交通の問題点】

- 体系的な公共交通が構築されておらず、既存の鉄道、バス、タクシーがバラバラに存在している。そのため、村内住民にも観光客にもわかりにくい交通体系となっている。
- 白馬駅は、村の玄関口ともなっており、南部の中心駅である神城駅とともに交通結節点としての機能の強化が必要である。
- 村内の観光地を周遊連絡するバスは、利用者にわかりやすい路線形態を考え、また、外国人にもわかる案内情報提供手段を検討する必要がある。
- 高齢者以外の交通弱者の移動、例えば親の負担を軽減する通学時の移動手段の確保等について、既存のデマンド型乗合タクシーの見直しを含めて検討する必要がある。



##### 【指摘点】

- 既存の交通がバラバラに存在して、わかりにくいとはどういうことか。

#### 【修正版】

##### 【各公共交通の問題点】

- 体系的な公共交通が構築されておらず、既存の鉄道、バス、タクシーの連携がとれていない。そのため、村内住民や観光客が村内を移動する際にどのように組み合わせれば目的地へ行けるかがわかりにくい交通体系となっている。
- 白馬駅は、村の玄関口ともなっており、南部の中心駅である神城駅とともに交通結節点としての機能の強化が必要である。
- 村内の観光地を周遊連絡するバスは、利用者にわかりやすい路線形態を考え、また、外国人にもわかる案内情報提供手段を検討する必要がある。
- 高齢者以外の交通弱者の移動、例えば親の負担を軽減する通学時の移動手段の確保等について、既存のデマンド型乗合タクシーの見直しを含めて検討する必要がある。

## 5. 課題に対する対応の方向性

【旧版】

調査分析による問題点・課題	課題の仕分け			
	対策を実施しているが不十分	未対策で検討が必要	将来的に対応を考える	要望等があるが対応が難しい
【地域概況からの課題】				
①高齢化による免許返納時や冬期積雪時等、車が運転できない場合の移動の確保	○			
②中山間地の集落存続のため若者の移住や定住を促進するための交通環境の改善			○	
【観光動向からの課題】				
③村の基幹産業である観光産業の競争力強化と安定化			○	
④観光入込数の減少に対する季節変動の分散化	○			
⑤外国人旅行者の滞在スタイルに合わせた公共交通手段の対応	○			
【各公共交通の現状の課題】				
⑥村内住民にも観光客にもわかりやすい公共交通体系の整備		○		
⑦白馬駅、神城駅等の交通結節点としての機能強化			○	
⑧複数の観光地を周遊連絡するバスの重複、複雑な路線形態の見直し	○			
⑨外国人観光客にわかりやすい案内情報提供手段の検討		○		
⑩父兄等の車による送迎の負担を軽減する通学時等の移動手段の確保		○		
【村民の移動上の課題】				
⑪移動制約者以外の村民もいつでも利用できる公共交通網体系の確立		○		
⑫乗合タクシーの利用促進、そのための運行日、運行時間等の見直し	○			
⑬利用者の移動を考慮した鉄道の運行及び乗換等の利便性向上			○	
⑭公共交通全体のサービス水準の向上と村民負担の検討	○			
⑮乗合タクシーの対象とならない交通弱者の公共交通の確保		○		
⑯村内を巡回するバスの検討				○
【通園・通学者の移動上の課題】				
⑰小学生の徒歩圏外通学者の移動手段確保		○		
⑱母親に依存した車での送迎環境の改善		○		
⑲冬期における通学の安全性確保		○		
⑳通学時の鉄道を活用した移動利便性向上の検討		○		
㉑新たな公共交通による通園・通学移動交通手段確保の検討				○
【観光客の移動上の課題】				
㉒観光客が年間を通じて利用できる公共交通網体系の確立	○			
㉓観光客にわかりやすいバス路線形態、情報提供、料金体系の検討		○		
㉔外国人と日本人が共存できる公共交通の検討	○			
㉕外国人の滞在スタイルに合わせた公共交通の検討	○			
㉖観光需要の分散に寄与する公共交通の検討	○			
㉗施設別観光入込数や公共交通利用者数等の一元的な管理及び情報提供		○		
【上位、関連計画からの課題】				
㉘広域交流軸であるJR大系線の存続と機能強化			○	
㉙白馬駅、神城駅、信濃森上駅などの拠点へのアクセス強化			○	
㉚白馬駅と八方地区、みそら野地区を結ぶ地区内の移動円滑化	○			
㉛魅力的な観光の街となるような公共交通の確保、案内誘導の充実		○		
㉜集落や里山を存続するための公共交通の確保			○	
㉝村内観光拠点、交流拠点を周遊する公共交通の再検討	○			



### 【指摘点】

- この時点で「対応が難しい」と位置付けるのはどうなのか。

- 対応の方向で課題を仕分けことをやめ、課題から基本方針に至る検討について再整理した。（今回協議資料に提示）